



「成人期の支援」―施設における視覚支援の取り組み―

神奈川県立保健福祉大学 社会福祉学科 岸川学 氏

二十歳の時に自閉症の方と劇的な出会いをされた岸川先生。施設職員を経て、現職である大学でのお仕事をしながら、施設のコンサルテーションをしていらっしゃいます。先生自身のご経験から、以下の3本立てでお話いただきました。

① 大人になった自閉症の人への視覚支援

横須賀で施設職員をされていた頃の先生ご自身の実践事例を、写真や動画でご紹介いただきました。ライフスキルに関する取組では、同じ生活場面で同じようなシステムを用いた支援でも、一人一人の特徴に合わせたシステムを提供するなど個別化が図られていました。「できること」と「できないこと」と「どこをどう支援したら一人でできるのか」という事前の評価(アセスメント)や課題分析から支援を始め、行き詰った時には、ご本人の得意なこと・好きなことから再構造化のヒントが見出されていました。

職業スキルの取組では、どんなに自閉症の特性が強くても、大人なので、社会の一員として社会に参加していくというポリシーから、できることを見つけていって、何かしら社会的な役割を果たすことがコンセプトとなっていました。支援者が手取足取りではなく、ご本人が一人でできる工夫をしていたそうです。

年を重ねていても、成長・発達する姿が見られ、身につけた一人でできることの自信は、ご本人の意欲につながっていました。「いつ」「どこで」「どのくらい(量・時間)」「どのように」を構造化によって、「意味としてご本人にわかるように伝え、自ら力を発揮してくれる」という実感が、支援に向かうモチベーションになっていたというお話が印象的でした。

② 入所施設における取り組み

現在先生がコンサルテーションに入られている入所型の成人施設での、職員研修の取り組みをご紹介いただきました。「日々の職務に追われているので、プラスαの支援はできない」等の支援者個人のネガティブ要素が、研修を通して「支援者同士が共通の目標に向かえた」「利用者理解が深まった」「利用者の表情が明るくなった」等の支援者間でのポジティブ要素に変化していました。支援プログラムが、利用者理解と支援統一の共通理解の基盤となり、利用者を中心とした視点でのチームとしての機能が高まったことが確認されました。

③ 自閉症者と家族のライフストーリー

成人を支援していく中で「親亡き後の支援」の必要性を感じた岸川先生。自閉症者の将来の「ライフストーリー」を描くことは、先生のライフワークとも言える研究テーマだそうです。ご本人と家族の人生の歩みである、これまでのストーリーを記録し、分析して、これからのストーリーを作っていくことの必要性が示唆されていました。そのための支援として、混沌とした不安も含め自閉症者の意思を汲み取って支援を展開することや、ライフステージを通して一貫した支援を構築することが挙げられていました。

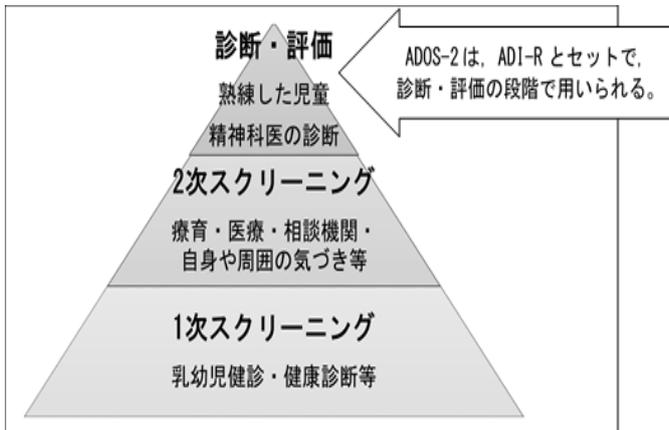
(文責 岡村)

ADOS-2 講習会

平成 28 年 11 月 27 日(日), きぼーるにて, 「ADOS-2 の検査及び評価の実践セミナー」が開催されました。
名古屋学芸大学 ヒューマンケア学部 子ども学科 教授 黒田美保氏 を講師にお迎えして,
午前中は「ADOS-2 の概要」, 午後は「ADOS-2 の実習」という流れでご講義いただきました。
受講者は, 県内に限らず県外からも, お集まりいただきました。

自閉症スペクトラム障害のアセスメントの中での ADOS-2 の位置づけ

ADOS-2 は, Autism Diagnostic Observation Schedule—Second Edition の略称です。
包括的な理解と支援のための, フォーマルなアセスメントの一つとして, ASD の特性をみる検査です。



生まれたときから一生涯続く ASD の診断・評価の方法では, 現在の様子と過去の様子の両方を知る必要があります。

前者を知るための直接の行動観察の一つが, ADOS-2 です。

後者を知るために, 発達歴や日常生活の全般の様子を, 親や養育者への面接によって聞き取ります。その際に用いられるツールの一つが, ADI-R です。

診断アルゴリズムが, DSM に対応しているため, 近年, ADOS-2 と ADI-R を用いることが多くなってきたそうです。

ADOS-2 の構成

観察

- ・モジュールごとに設定された観察の課題内容 (10~15 項目) を行いながら, 被検者の視線やジェスチャー, 表情, 社会的なやりとりなど, 「どのように答えたか」を観察・記録していく。
- ・各項目の目的は複数あり, 特定の働きかけが, どのような行動特徴をみるためなのかを念頭において検査を行う必要がある。



評定

- ・観察の課題内容を実施後, すぐに評定する。
- ・検査場面で見られた様子を覚えておいて, 評定項目に照らし合わせて得点化していく。・被検者が「〇〇と言っていたから」「△△していたから」という, 検査場面の事実を裏付けて評定する。
- ・観察の課題内容を行う中で見られた行動を総合して, 自閉症の特徴について「言語と意思伝達」「相互的対人関係」「遊び/想像力」「常同行動と限定的興味」「他の異常行動」の 5 領域の得点 (主に以下の 0, 1, 2, 3) をつける。



評定 0	行動に, 所定の異常がみられない。
評定 1	行動の異常が軽度である。著しく明瞭な異常ではない。
評定 2	行動に, 所定の型の異常が明らかにみられる。
評定 3	行動が, 検査の妨げになるほど著しく異常である。

アルゴリズム

- ・診断アルゴリズムを用いて, 自閉症・自閉症スペクトラム・非自閉症スペクトラム の診断分類ができる。

ADOS-2 の概要

・半構造化面接

…マニュアル通りに話すのではなく、被検者に合わせて言い換えをしてもよいということが、ADOS-2 の特徴の一つだそうです。検査というよりも“Social World”を作り、楽しい雰囲気ですすめていくとのことでした。

質疑応答のやりとりではなく、被検者の話す内容に応じて、検査者も普通の会話のように話を広げたり、世間話をしたりします。フランクな雰囲気で、相互的なやりとりのある会話をしていく中で、自閉症の特徴を観察していくのだそうです。

・対象者本人の直接行動観察に基づく専門家評価

・対象年齢：12 か月～成人

・対象者の表出言語水準と生活年齢に合わせて、5つのモジュールから選択する。

乳幼児モジュール (モジュールT)	無言語～二語文レベル	推奨年齢 12～30 か月
モジュール1	無言語～二語文レベル ex 「ババ カイヤ」 「リンゴ ポイ」	推奨年齢 31 か月以上
モジュール2	三語文で話すレベル (流暢に話す レベルには未達)	3～5 歳くらい (幼稚園年少・年中 くらい)
モジュール3	流暢に話すレベル	小中学生～青年期前期 (IQ70～80 境界知能なら検査可能)
モジュール4	流暢に話すレベル	青年期後期・成人

…モジュールごとの課題内容については、特長的な項目・道具と中心に、検査場面の映像を見ながら解説していただきました。検査用具や質問項目は、子どもから大人まで、自閉症の特徴がよくわかるように作られていました。

…講習会の会場にも展示していたように、検査キットには、様々な道具があり、まるで、おもちゃ箱のようでした。子どもの好きそうな遊びをしながら、楽しい雰囲気で、対人的な意識や共同注意、ルーティンを作れるか、人を頼りにしているかなど、対人コミュニケーション面を行動観察するので、おもちゃが多いのだそうです。

ADOS-2 の実習

午前の ADOS-2 の概要についての講義の後、午後からは、観察→評定→診断・評価の流れを実習しました。

黒田先生がモジュール 4 の検査をされている場面の VTR を見ながら、受講者全員が検査者として、実際に、記録用紙を用いて、一通りの検査場面を観察しながら記録をした後に、評定項目に照らし合わせて得点化する作業に取り掛かりました。

評定の確認と共有では、受講者が、一人1つずつ、評定項目を読み上げてから、根拠と共に何点をつけたかを発表しながら行いました。黒田先生は、各評定項目について、検査場面での観察を得点化する際の視点を、丁寧に解説してくださいました。特に、評定につながる根拠として、検査場面で被検者が「〇〇と言った」「△△という行動があった」という事実を確認したので、より具体的に学ぶことができました。

評定した得点を、記録用紙の集計表に転記して計算すると、アルゴリズムに当てはめることができました。すると、被検者の方について、スムーズに「自閉症」・「自閉症スペクトラム」・「非自閉症スペクトラム」の診断・分類をすることができました。

最後に、黒田先生は、雰囲気得点をつけるのではなく、行動を押さえて「この部分とこの部分とこの部分があるから何点」と、全検査の全ての項目から抽出した事実を根拠として得点化していくことが、ADOS-2 を行う際に大切なことであると、強調されていました。

ADOS-2 は、被検者の方との自然なやりとりの中で自閉症の特性が見えてくることや、アルゴリズムに乗って特性の強さがわかることが印象的でした。特に、口頭でのやりとりができていような方で、生きづらさを感じている方の支援について考えていく際には、たいへん有効なアセスメントであると思いました。



千葉 TEACCH 研運営の学び

今年度の千葉県 TEACCH プログラム研究会のセミナーも、全回を無事に終えようとしております。皆様方におかれましては、お忙しい中、毎回本当にたくさんの方にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

セミナーの運営にあたり、講師の先生や他の運営役員、そしてご参加いただく皆様のおかげもあり、毎回とてもスムーズに会を運営することができ、とても感謝しております。セミナーを運営するにあたり、大変なことももちろんたくさんありますが、一方で学ばせていただいたこともたくさんあります。

まずは、運営役員にとっては普段から注目をしているのですが、研修会に参加される方にとって目を通す機会がないものが、アンケート結果だと思います。アンケートにはとても嬉しいことを書いていただくことと、至らない点をご指摘いただくことの両方があり、どちらもありがたいご意見です。当日の資料や会場の温度等…ご迷惑をおかけして申し訳ない部分でもありますが、ご意見をいただくことで、受講される方の視点をより学ぶことができ、より良い運営に繋げていこうと思っております。

また、次年度に講師としてどなたをお呼びするかといった話し合いは、運営役員にとっても重要なものであると感じています。より千葉県の実情にあった講師はどなたかといった話し合いをする中で、国の方針といった大きな視点と、受講される方のニーズといった現場の視点の両方に目を向けることが、私自身にとっても大きな学びとなりました。その中で、今年度はより受講される方の要望を反映させようと、アンケートの中に講師や講演内容の要望の欄を加えさせていただきました。皆様のご意見を反映させることは難しいですが、ご希望を教えていただけますと幸いです。

運営役員として、まだまだこちらに書ききれないことを学ばせていただくことができております。もし運営役員になることをご希望の方がいらっしゃいましたら、セミナーの際に運営役員まで、お声がけいただけますと幸いです。千葉県 TEACCH プログラム研究会一同、お待ちしております。(事務局:神田)

平成29年度TEACCHプログラム研究会総会 第1回連続セミナーのご案内

「自閉症スペクトラム(ASD)の特性理解と支援」

講師; 京都市児童福祉センター 児童精神科医 門 眞一郎氏

期 日; 平成29年5月13日(土) 13:30~16:30(総会受付開始12:20)

場 所; 千葉県教育会館 大ホール(千葉市中央区4-13-10)

※問い合わせ、申し込みは事務局まで

編集後記:今回はADOS-2の講習会の記事を2ページ取りました。読んでいただいていたか。連続セミナーは、毎回120名程度の参加があるのですが、アセスメントの講習会やトレーニングセミナーなどの実践セミナーでは参加者が少ないこともあります。事務局神田のご挨拶にもありますように、私たちスタッフは、皆さまのご希望に添えるようにと願って活動しております。本業の勤務(千葉T研は、教員が多いのが特色となっています。)に差し支えない範囲ではありますが、精一杯のボランティア活動であるご理解の上、お許しください。皆さまの温かいご意見、お待ちしております。(田中律子)